

理学部物理学科 4 年生配属の方法 V1.1

物理カリキュラム委員会

植田、河原崎、窪田、高杉、竹田、藤井、細谷、松田、山中（卓）、Slevin

2004 年 3 月 24 日

2004 年 3 月 24 日に開いた物理のカリキュラム委員会において検討した結果、2004 年度の物理学科の 4 年生の研究室配属先の原案を、次の方針に従って決めた。

1 4 年生への進級基準

4 年生への進級（正確には、「物理学（宇宙地球科学）特別研究の履修）のための基準は、次のとおりにする。

1. 2001 (H13) 年度以降に入学した学生の 4 年生への進級基準は、入学時の学生便覧に書かれている条件 (表 1 参照) を厳守する。

説明：この条件を適用することは、1 年生の段階から周知徹底してきている。また、過去に比べて進級の条件は緩めてあるため、書かれている条件に徹することができる。

2. 2000 (H12) 年度以前に入学した学生に対しては、専門教育選択 18 単位以上、かつ専門教育必修 36 単位以上を取得し、両者の合計が 58 単位以上であれば、4 年への進級を認める。

説明：2000 年度以前に入学した学生に対しては、過去、便覧に書かれていた条件を完全には遵守していなかった。従って、H12 年度以前入学と H13,14 年度入学に対する、必修、選択それぞれの単位数の少ない方の基準を満たしている場合を認める。ただし、必修と選択の合計は基準の 58 単位を守る。

3. ただし、進級しなければ卒業の可能性が閉ざされる場合などの特殊事情がある場合には、カリキュラム委員会が進級させるかどうかの提案を行い、学科長が決定する。

説明：現段階で在学 7 年目の場合は、4 年に進級しなければ、8 年以内に卒業することが不可能になる。また、国費留学生は留年すると、奨学金が止まってしまう。これらの例に見られるような特殊な事情があり、かつ、4 年生に進級しても卒業に必要な単位数が取れると判断される場合に限り、特例として進級させることができる道を残しておく。ただし、これは一般の学生が 1 単位以上不足している場合には適用されない。

4. 外国語の単位が1単位不足しているが、指定以外の外国語の単位を取っている学生は、勘違いをしていると判断し、外国語の単位についての進級の条件は満たしているとした。しかし、このままでは卒業要件を満たさないので、要件を満たす単位を取り直す等の指導を行う。
5. 4年生に進級できなかった学生に対しては、学科長が担当の人を決め、担当者が学生に個別に会って、指導を行う。

説明：単に機械的に落とすのではなく、なぜ必要な条件を満たすことができなかったのか、学生の事情を聞き、次の年には4年に上がれるよう、適切なアドバイスを与える。勉強の仕方を改善する、精神的な問題などがあるので治療を受けさせる、など、様々なケースが考えられる。いずれにしても、先生と生徒のつながりを作ることが必要。

表 1: 学生便覧に書かれている、特別研究履修に必要な単位数／卒業のために必要な単位数。専門教育科目総計からは、4年の特別研究の選択必修科目8単位は引いてある。

科目	H12 以前入学	H13,14 入学	H15 以降入学
共通教育科目	28/28	28/28	26/28
専門基礎教育科目	18/18	18/18	23/25
専門教育科目必修	40/44	36/40	37/41
専門教育科目選択	18/26	22/30	16/22
専門教育科目総計	58/70	58/70	53/63

2 配属数

1. 物理と宇宙の定員は2:1に合わせる。

説明：これは、歴史的な経緯。

2. 理論の研究室と実験の研究室で、定員の差はつけない。

説明：理論の研究室の定員を減らすと、大学院で実験に移る人が少なくなり、実験のことを真剣に考える学生が減る。また、実験にとっても、4年生で理論をやり、自分で考えて大学院で実験を志望する学生は伸びるケースが多い。

3. 1研究室の定員の上限は約3名を原則とする。

説明：学生が1学年約80名おり、研究室の数が30弱あるので、この程度が適当。

4. 複数の研究室が一つのグループとしてまとまって募集することは可能。

説明：例えば素粒子理論の研究室のように、4年生の指導も大グループ全体で行っている場合は、個々の研究室で募集するのは無意味。

3 志望調査と配属の決定方法

3.1 基本的な考え方

動機が明確でない研究室に行っても、急速な発展は望めない。4年生になって研究を進めて行く上で、最も大事なものは、「自分が興味を持つことをやる」ことである。このためには、

1. 自分は何に興味があるのかを明確にし、
2. その興味を満たすことのできる研究室に行く

ことが必要である。

また、配属の決定方法や基準が、学生に対しても明確であり、年によって変わらないことが必要である。

3.2 学生の志望調査

1. 3年生に対する研究室紹介のときに、研究室の募集リストと、志望調査票を配布する。
2. 研究室の募集リストには、研究室もしくはグループの教官名、および原則の募集定員を記す。
3. 志望調査表は、各自3枚。調査票はA4の大きさと、それぞれに、
 - 氏名、
 - 志望順位(1位～3位)、
 - 志望する研究室／グループ名、
 - その研究室／グループを志望する動機

を書く。

説明：まず、志望動機をA4の紙一枚いっぱいにかかせることは、自分が何をやりたいのかを考えるいい機会になり、自分の興味を明確にすることができる。また、3位までしか書かないのは、それより下の希望については、その研究内容を理解して書くのは難しいからである。

4. 志望調査表を提出する前に、学生が人気の集中程度を知り、志望先を調整しあえる機会を設ける。このために、研究室／グループの表を物理事務室の掲示板に掲示し、そこにそれぞれの第1希望を記入してもらう。ただし、これはあくまで人気調査であることを明記する。

説明：学生たちが自分たちで調整することの是非も問われたが、結局は学生が自分で判断して決めたところに行くことが本人にとっても良い結果を招くと考える。また、人気の具合がわかれば、志望を3位までに絞っても、ほぼその希望範囲内で決めることができる。

志望先を書くだけでなく、全員が集まってお互いに話し合える機会も作ればよいが、春休み中になるため、検討が必要。もし3月のクラス懇談会でそれを行うなら、志望調査票を書くためにさらに、提出期限を遅らせる必要があり、時間的に間に合わない。

5. 志望調査票は、成績の確定する3月の中頃までに提出させる。

3.3 配属の決定方法

3.3.1 進級者と配属数の決定

1. 4年に進級する者を決定する。
2. 物理と宇宙地球に配属する人数を決める。
3. 各グループの配属数の上限を決める。

3.3.2 第1志望による配属

1. 第1志望に従って、学生をグループごとに分ける。
2. 各グループごとに、志望者数が配属数の上限を越える場合は、希望理由書を複数のカリキュラム委員が読み、必要に応じて成績も考慮し、配属数の上限値まで、配属する人を決める。これにより、このグループには、これ以降学生を配属しない（閉じる）。
3. 各グループごとに、志望者の数が配属数の上限以下であれば、その志望者をそのグループに配属する。（しかし、例えばグループあたりに配属を予定している人数の平均が2.6人など、端数の場合は、配属数が2人と場合や3人の場合がある。）
4. この段階で、配属を決定した人数が、物理と宇宙地球の配属数を越えていないか調べる。もし越えている場合は、超過している人数だけ、配属決定からはずす。

3.3.3 第2志望による配属

1. まだ配属が決定していない人を、第2志望に従って、まだ配属数の上限に達していない（開いている）グループに分ける。
2. もし、第2志望のグループが閉じている場合は、第3志望のグループに分ける。
3. 第3志望のグループも閉じている場合は、この学生の配属は後で検討する。

4. 物理、宇宙地球で残されている配属数を元に、各グループへの配属数の目安をつける。
5. 目安の人数を越えていないグループについては、その人数までは志望者を配属する。
6. 目安の人数を越えているグループについては、第1志望の場合と同様に、希望理由書と成績をもとに、配属する人を決める。これにより、このグループは閉じる。
7. この段階で、配属を決定した人数が、物理と宇宙地球の配属数を越えていないか調べる。もし越えている場合は、超過している人数だけ、配属決定からはずす。

3.3.4 第3志望による配属

1. 第2志望と同様の手順で、まだ配属が決まっていない人を、第3志望によって配属する。

3.3.5 配属が決まらなかった学生

1. 大まかな志望分野を考慮して、残されたグループの中から適切と思われるグループを、カリキュラム委員長と学科長が選び、学生に勧める。

4 高原学科長からの意見

以上の方針に従って、2004年3月24日のカリキュラム委員会で4年生の配属の原案を作ったが、その後、高原学科長から、次の意見が出された。

- 物理と宇宙地球の人数比を2:1に初めから決めるのは、不適切である。
- 各グループの配属数は、スタッフの数をもとにして決めるべきである。
- 物理と宇宙地球の、各グループの定員の扱いなども、専攻の間で差を付けるべきではない。
- スタッフ数よりも多い学生を、配属させるべきではない。